

1年 単元名「磯の生物観察会」(4時間)

1 単元設定の理由

この単元では、本校の海洋教育(パイオニアスクールプログラム)の一番最初の段階として、1年生が、身近な「海に慣れ親しむ」というテーマで、「磯の生物観察会」として単元を構成した。

この活動は、大月町内にある黒潮生物研究所の協力を得て、磯の生物と触れ合う機会を設けた。日程は、午前中は研究所の中で身近な海の生き物のイソギンチャクやヒトデなどのことを学びながらクイズやゲームで遊び、午後からは実際に近くの磯(通称:するぎの浜)に出て魚やカニ、エビなどを捕まえ大月の海の豊かさを直接体感できる活動を取り入れた。

2 単元目標

- ・黒潮生物研究所の方からの話を聞き、身近な海の生き物への興味・関心を持つ。
- ・友達と関わり協力しながら室内や海での活動を楽しむ。
- ・生き物とふれあい、大切に扱い、命を大切に作る心を育てる。
- ・安全に気を付けて活動できる態度を育てる。

3 単元の評価基準

【学習に関すること】

- ・先生の話をしっかり聞いているか。
- ・海の生き物に興味をもって取り組んでいるか。
- ・大月の海のすばらしさに気づくことができたか。

【自分自身に関すること】

- ・進んで観察や作業に取り組んでいるか。
- ・安全に気を付けて作業できているか。

【他者や社会とのかかわりに関すること】

- ・友達と関わり協力しながら学習できているか。

4 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
2	【学習活動1】 黒潮生物研究所内で、身近な磯の生き物(魚・ウニ・貝類)について、スライドで紹介しながらクイズ形式で生き物について知る。 水槽に入った、磯の生き物を観察する。 磯での観察の仕方や注意などについて、職員から話を聞く。	<ul style="list-style-type: none">・水槽の生き物を大切に扱う。・順番をも持って観察する。・けがや事故がないよう、ルールをしっかり守って観察を楽しむ。
2	【学習活動2】 観察道具(イソノミ、バケツ、飼育カゴ等)をもって磯に集合する。 安全に気を付けて、生き物採集をする。 採った生き物をみんなで観察し合う。 元あったところに生き物を返す。	<ul style="list-style-type: none">・磯は滑りやすいので安全に気を付けて採集する。・採った生き物を、研究所の職員に説明してもらいながら、みんなで観察する。・自分の使った道具をきちんと返す。・お礼をしっかり言う。
外部連携 / 教材等 ・黒潮生物研究所 この後、「とっておきの出前授業」として、生物研究所の職員に学校での海の学習を2回ほど行ってもらった。(内容は、アメフラシのふしぎ、くらげのふしぎ)		

2年 単元名「浜辺のレストラン」(4時間)

1 単元設定の理由

この単元は、1年生の時の、「磯の生物観察会」を一步前進させる形で、磯の生物観察を含め、磯にいる貝などを採って食べる活動をメイン活動とした「海辺のレストラン」と設定した。私たちの生活する大月の海は、たくさんの海の恵みを提供してくれる、中でも磯にいる貝は子どもたちでも手軽に採集でき味もよい。浜辺で、鍋に塩水を入れそのまま火にかけゆがくというシンプルな食べ方を子どもたちに体験させ、海からのすばらしい恵みに気づいてほしいという考えから、この単元を設定した。

2 単元目標

- ・黒潮生物研究所の職員から話を聞き、様々な海の生き物に興味・関心を持つ。
- ・友だちと協力して、作業を進めることができる。
- ・海の恵みに興味・関心を持つ。
- ・大月の海のすばらしさに気づく。

3 単元の評価基準

【学習に関すること】

- ・講師の先生の話をしっかり聞いているか。
- ・海の生き物に興味をもって作業に取り組んでいるか。
- ・大月の海のすばらしさに気づくことができたか。

【自分自身に関すること】

- ・進んで観察や採集作業に取り組んでいるか。
- ・安全に気を付けて作業できているか。

【他者や社会とのかかわりに関すること】

- ・友達と関わり協力しながら学習できているか。

4 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
2	【学習活動1】 弁天島付近の浜で、磯やタイドプールにいる生き物採集を行う。 採った生き物を観察会を行う。 班で観察会をした後は海に返す。	・安全に気をつけて友達と協力して採集する。 ・水槽に採った生き物を入れ観察する。(知っている生き物、珍しい生き物などの紹介) ・図鑑などを使って名前を調べる。 ・できるだけ採れた場所に返す。
2	【学習活動】 磯辺の貝を集める ・どのような場所でその貝が取れたかを記憶しておく。 採れた貝を見合う。 まきを近くから拾ってきて準備する。 貝を鍋に入れゆがく。 十分火が通ったら試食会を行う。 片づけ、振り返りをして帰る。	・先生から、採っていい貝や、あまりおいしくない貝などの紹介をしてもらう。 ・けがの内容に、足や手のすり傷に注意する。 ・事前に貝アレルギーなどについて調査しておく。 ・火の後始末、貝殻の後始末をしっかりして帰る。
外部連携 / 教材等 ・この後、黒潮生物研究所・黒潮実感センターの職員に来てもらい、「とっておきの出前授業を行う。(内容は：口の中で子どもを育てる魚、貝には歯がある?など)」		

3年 単元名「身近な磯の生物観察会」(4時間)

1 単元設定の理由

3年生での海洋教育は、海を知り・楽しむをテーマに、シーカヤック体験を計画したが、天候の関係で今回は実施できなかった。その代わりに、柏島で、海の生き物を採集をした後、実感センターに帰り、顕微鏡などを使って、細かいところまで身近な生き物の体や生態について観察することができた。

2 単元目標

- ・黒潮実感センター職員の話聞き、1・2年次の経験を活かし、更に興味・関心を高める。
- ・班で協力して、生物収集を行う。
- ・安全に気をつけて活動できる態度を育てる。
- ・顕微鏡などの機器の使い方を理解し、正確に使用できる。

3 単元の評価基準

【学習に関すること】

- ・先生の話をしっかり聞いているか。
- ・海の生き物に興味をもって取り組んでいるか。
- ・大月の海のすばらしさに気づくことができたか。
- ・顕微鏡などの機器を、正しく活用できているか。

【自分自身に関すること】

- ・進んで観察や作業に取り組んでいるか。
- ・安全に気を付けて作業できているか。

【他者や社会とのかかわりに関すること】

- ・友達と関わり協力しながら学習できているか。

4 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
2	【学習活動1】 ・磯に出て生き物採集を行う。 ・水槽に入れ、観察会を行う。	<ul style="list-style-type: none">・どこに何があるかメモしておく。・生き物を大切に扱う。・安全に気をつけて採集する。
2	【学習活動2】 ・場所を、黒潮実感センターに移し、採集した生き物、ヤドカリ・イソギンチャク・貝・カニ・エビ等を顕微鏡を使って観察する。 ・顕微鏡で見た生き物をスケッチする。 ・スケッチしたものや気づいたことを発表する。 ・生き物を海に返す。	<ul style="list-style-type: none">・班別で、採集した生き物をバットに並べ区別する。・先生から、顕微鏡の扱い方を説明してもらう。・丁寧にスケッチを行う。スケッチのコツも教えてもらう。・今日の学習の振り返りを行い、また海の生き物への興味・関心を高め、大月の海のすばらしさの認識を深める。
外部連携 / 教材等 ・黒潮生物研究所・黒潮実感センター この後、「とっておきの出前授業」として、黒潮実感センター・生物研究所の職員に学校での海の学習を2回ほど行ってもらった。(内容は、くらげのふしぎ、これは何の口(イカの生態))		

4年 単元名「育てる漁業体験（種苗センター見学）」（2時間）

1 単元設定の理由

4年生では、海の活用について、親魚から卵を採集し、ふ化させ育てる漁業を推進している、古満目地区にある、山崎技研を訪れ、育てる漁業体験として種苗センターの見学をさせてもらった。

子どもたちはこれまで、磯の生物観察会や総合的な学習の時間などで、海に親しみ、海を知る活動を行ってきた。ここでは上記にもあるように、漁業には取るだけでなく、養殖など育てる漁業もあることを知り、今後自然資源が不足する状態も危惧される中で、人間の手で育てる漁業も行われていることを子どもたちに理解してもらうためにこの単元を設定した。

2 単元目標

- ・漁業には、様々な漁業の仕方があり、育てる漁業があることを理解する。
- ・施設の職員の話から、仕事に対する思いや喜びを理解する。
- ・飼育プロセスや飼育方法、飼育されている魚種などについて理解する。
- ・班で協力して見学する態度を育てる。

3 単元の評価基準

【学習に関すること】

- ・施設見学に興味をもって取り組んでいるか。
- ・飼育方法や手順を理解できているか。
- ・大月の海が、飼育にも適していることを理解しているか。

【自分自身に関すること】

- ・進んで見学やメモをとるなど、観察や作業に取り組んでいるか。
- ・ルールを守って見学できているか。

【他者や社会とのかかわりに関すること】

- ・友達と関わり協力しながら学習できているか。

4 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
3	【学習活動1】 ・山崎技研の職員から、種苗採集のからふ化・養殖までの様子を説明してもらおう。 ・事前に準備した質問を行う。 【学習活動2】 ・2班に分かれて、施設内の水槽や魚の様子を見学する。 ・振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none">・普段は入れない施設なので、ルールを守って見学する。・疑問に思ったことを自分の言葉で質問する。・施設の様子や大きさなど、気の付いたことをメモさせる。・今日の見学で気の付いたことや、疑問に思ったことを発表する。
外部連携 / 教材等 ・黒潮生物研究所・黒潮実感センター この後、「とっておきの出前授業」として、黒潮実感センター・生物研究所の職員に学校での海の学習を2回ほど行ってもらった。（内容は、サンゴのふしぎ、大月の海の宝（宝石サンゴ漁について）		